

## 第6学年国語科学習指導案

日 時 平成23年9月29日(木) 6校時

児 童 男子8名 女子2名 計10名

指導者 小山田 忍

### 1 単元名(教材名)

ものの見方を広げよう(『鳥獣戯画』を読む) 光村図書 P. 132~141

### 2 単元について

#### (1) 児童について

児童は、説明的な文章の前単元「生き物はつながりの中に」で、文章と対話して読む読み方を学習した。文章構成をとらえることで、筆者が最も伝えたいことを読み取るとともに、「共感できるかどうか」という視点で筆者の考えに対する自分の考えをもち、さらに、自分の知識や経験、読書体験と絡めながら書くことを学んだ。しかし、共感できるかどうかという視点で自分の考えをまとめることはできても、自分の知識や経験、読書体験を絡めながら書くことのできる児童は少ない。

自分の考えを交流する場面では、自分の考えを発表し合うことはできているが、相手の考えと自分の考えを比べながら聞き、さらに自分の考えを深めるまでには至っていない。これは、相手の話を聞く力が不十分だったり、教師が交流する観点をきちんと提示できていなかったりしていることが原因として考えられる。

#### (2) 主たる指導事項

学習指導要領第5学年及び第6学年の「C 読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。本単元の主な指導事項は、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。」(読む)「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」(読む)である。

本単元の教材『鳥獣戯画』を読むは、アニメーション映画のプロのものの見方を知ることができるとともに、漫画やアニメーションのルーツともいえる「鳥獣戯画」が伝統文化として深く息づいてきたものであることを知ることができる文章である。本単元では、絵と文章とを対応させながら効果的に読む読み方を学習する。ここでの効果的な読みとは、絵と文章を対応させ、絵のどの部分と文章のどの部分に対応するかということについて丁寧に読ませ、そのことについて筆者がどう評価しているかを読み取らせていく。また、読み取ったことを交流し合うことで、筆者の見方について自分の考えを広げたり深めたりさせたい。

#### (3) 指導にあたって

本単元では、小説や物語、映画などについて書かれている文から筆者の評価が表れている部分を読み取る言語活動を取り入れていく。

本教材は、「鳥獣戯画」の絵の解説と解釈、評価が述べられた評論文である。筆者の書いた文章と絵を照らし合わせながら読むことによって、内容をとらえることができる。筆者のものの見方をとらえ、さらに自分なりに考えをもつためには、絵や絵巻物に対する自分なりの解釈や評価も行わなくてはならない。

第一次では、P133 の絵を拡大写真で見せ、絵に対する気付きや感じたことをもたせたうえで、教科書に書かれてある筆者の感じ方と比較させたい。自分の感じ方と筆者の感じ方の違いに気付かせることで、「ものの見方」に対する学習意欲と教材文への興味関心を高めたい。

第二次では、絵と絵巻物について筆者が取り上げている対象と、その取り上げた対象の着目点、また、筆者がどのように評価しているかということについて読み取っていく。①段落から⑥段落までは、「鳥獣戯画」を2枚の絵として扱い、細部の特徴を述べているのに対して、⑦段落以降は絵巻物としての特徴を述べ評価している。絵と絵巻物との違いに着目させて、筆者の主張をとらえさせていきたい。

第三次では、物語や小説、映画や演劇などについて書かれた文章を新聞や雑誌などから探して読み、第二次で学習した読み方を使って、「何を取り上げているか。」「取り上げたものの、どこに目を向けて、説明や解説をしているか。」「どのような言葉で評価しているか。」に気を付けながら読み取る活動をする。

### 3 単元の目標

#### (1) 国語への関心・意欲・態度

- ・絵や絵巻物に興味をもち、文章を進んで読もうとする。

#### (2) 読むこと

- ・事実と感想・意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができる。(1) ウ
- ・文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。(1) オ

#### (3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・文末表現や助詞の使い方など、語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解することができる。(1) イ (オ)

### 4 単元の評価規準 (B)

#### (1) 国語への関心・意欲・態度

- ・絵や絵巻物に興味をもち、文章を進んで読もうとしている。

#### (2) 読む能力

- ・筆者がどのようなことを根拠として考えを述べているのかをとらえている。
- ・筆者の立場、専門性、時代性なども考えて、筆者の考え方をとらえている。
- ・筆者の意図と表現の工夫との関連について考えている。
- ・文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。

#### (3) 言語についての知識・理解・技能

- ・文末表現や助詞の使い方など、語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解している。

5 学習指導計画（読むこと7時間 全7時間）

段階	学習課題	学習活動（時間）	評価規準（B）
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の作品に対する見方をとらえ、ものの見方を広げよう。（P.132①段落）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P133の絵を見て感じたことをノートにまとめ、筆者のものの見方や感じ方との違いに気付く。</li> <li>・学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。（1時間）</li> </ul>	<p>【関】 P133の絵について、自分の感じ方と冒頭の文章を比べながら、筆者のものの見方や感じ方について感想を述べている。（発言・ノート）</p>
とらえ・ふかめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵と文章を照らし合わせながら、筆者の見方をとらえよう。</li> <li>・絵巻物と文章を照らし合わせながら、筆者の見方をとらえよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「絵全体の中のどの部分を取り上げているか」「取り上げた対象の何に着目しているか。」という観点で文章を読み、文章と絵を照らし合わせながら読む。また、「どのようによいと考えているのか。筆者の評価が現れているところ」にサイドラインを引く。（2時間）本時1/2</li> </ul>	<p>【読む】 絵のどの部分を取り上げ、何に着目し、どう評価しているかについて、絵と文章を対応させながら読み取っている。（発言・サイドライン・ワークシート）</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者は、自分の見方を読者に伝えるために、どのような表現や構成の工夫をしているのだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現や構成の工夫点を整理する。（1時間）</li> </ul>	<p>【言イ】 表現や構成の工夫について、その効果や筆者の意図を考えている。（ノート）</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を通して新しく知ったこと、自分のものの見方が広がったと思うことを話し合い、深めよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P141<sup>2</sup>「考えをまとめよう」の四つの題材から好きな題材を選び、学習を通して新しく知ったこと、見方が広がったと思うことについて、自分の考えをまとめる。（2時間）</li> </ul>	<p>【読オ】 『鳥獣戯画』を読むを読んで、新しく知ったことや、自分のものの見方が広がったと思うことについて、自分の考えをまとめ、話し合っている。（ノート・話し合い）</p>
つかう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の見どころやすばらしさを伝える文章を読み、筆者の評価が表れている表現を見つけよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語や小説、映画や演劇などについて書かれた文章を探して読み、P141「たいせつ」の観点で筆者の評価が表れている表現を見つける。（1時間）</li> </ul>	<p>【読む】 身の回りにある、物語や小説、映画、演劇などの見どころやすばらしさが書かれた文章を読んで、筆者の評価が表れている部分を探している。（ノート・話し合い）</p>

6 本時の指導

(1) ねらい

- ・筆者が、絵の描き方について、どんな感じ方や評価をしているか、絵と文章を照らし合わせながら読み取ることができる。

(2) 展開

段階	学習活動	時間	指導上の留意点・評価
つかむ	<p>1 学習課題の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>絵と文章を照らし合わせながら、筆者の見方をとらえよう。</p> </div> <p>2 学習方法を確認する。</p> <p>(1) P140 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</span> 「表現に着目して読もう」を読み、視点を確認する。</p> <p>ア 絵全体の中で、どの部分を取り上げているか。(どの兎、兎のどこ)</p> <p>イ 取り上げた対象の何に着目しているか。(形、大きさ、色、格好、動き、表情、気持ち、筆さばきなど)</p> <p>ウ どのようによいと考えているか。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イの観点では、例示されている「形、大きさ、色、格好」の他に、「動き、表情、気持ち、筆さばき」など、児童が対象をとらえやすいように補足する。</li> </ul>
ふかめる	<p>3 学習の進め方を練習する。</p> <p>(1) P133 の絵について書かれてある②段落を音読する。(ア～ウの視点に気を付けて読む)</p> <p>(2) ア～ウの視点で読み取ったことをワークシートに書く。(一斉)</p> <p>4 P135 の絵と本文とを対応させて読む。(自力)</p> <p>(1) P135 の絵について書かれてある⑤⑥段落を音読する。(ア～ウの視点に気を付けて読む)</p> <p>(2) ア～ウの視点で読み取ったことをワークシートに書く。(自力)</p> <p>5 グループ内(3人、3人、4人)で、線を引いた箇所や書き込んだことを話し合う。</p> <p>6 グループ毎にまとめたことを発表する。</p>	35分	<p>&lt;工夫①&gt;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <p>記述に即して考えをもたせる工夫</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の進め方が分かるように、まず②段落の文章を使って練習させる。(一斉)</li> <li>・教師と一緒に読み取ったことを確認させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アは直線、イは書き込み、ウは波線と評価の書き込みをさせることで、絵についての事実と、その評価についての関係を押さえさせる。</li> </ul> <p>Ⓢ筆者が、絵のどの部分を取り上げ、何に着目し、どう評価しているかを読み取っている。</p> <p>&lt;工夫③&gt;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <p>お互いの考えを交流し合う場の工夫</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの観点</li> <li>①絵全体の何を取り上げ、何に着目しているか。</li> <li>②筆者の評価が表れている文はどこか。</li> <li>③意見が別れたり、疑問に思ったりしたことをまとめる。</li> </ul>
まとめる	<p>7 筆者の見方について振り返る。</p> <p>8 次時の学習を確認する。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が、どんなところに着目して、どんな評価をしていたか、筆者の見方について振り返えさせる。</li> <li>・「絵巻物」について、今日の視点で読み取っていくことを予告する。</li> </ul>

(3) 具体的評価規準

- A 絵のどの部分を取り上げ、何に着目し、どう評価しているかについて、絵と文章を対応させながら詳しく読み取っている。
- B 絵のどの部分を取り上げ、何に着目し、どう評価しているかについて、絵と文章を対応させながら読み取っている。

努力を要すると判断された児童への具体的な手立て

着目の観点を手がかりに、取り上げたい対象について教師と一緒にサイドラインを引く。

7 板書計画

P135 の絵	P133 の絵	<p style="text-align: right;">⑧ 「鳥獣戯画」を読む 高畑 勲</p> <p>絵と文章を照らし合わせながら、筆者の見方をとらえよう。</p> <p>ア 絵全体の中で、どの部分を取り上げているか。(どの兎か、兎のどこか) 線を引く。</p> <p>イ 取り上げた対象の何に着目しているか。(形、大きさ、色、格好、動き、表情) どのようによいと考えているか。</p> <p>ウ (筆者の評価が現れている表現に 線を引く。どう評価しているかを書き込む)</p>
<p>⑥ もんどりうって転がった兎の、背中や右足の線。勢いがある。絵が止まっていない。動きがある。しかも、投げられたのに目も口も笑っている。(略) ほんのちよつとした筆さばきだけで、見事にそれを表現している。たいしたものだ。(略)</p>	<p>② 段落の本文 (略) 耳の先だけがぼちんと黒いのは、白い冬毛の北国の野ウサギ。蛙はトノサケカエル。まだら模様があつて、いく筋か背中が盛り上がっている。ただの空想ではなく、ちやんと動物を観察したうえで、骨格も、手足も、毛並みも、ほぼ正確にしっかりと描いている。だから、この絵を見ると、さつきまで四本足で駆けたり飛びはねたりしていた本当の兎や蛙たちが、今ひよいと立って遊び始めたのだと思えない。</p> <p>⑤⑥ 段落の本文 (略) 兎を投げ飛ばした蛙の口から線が出ているのに気がついたかな。(略) ポーズだけでなく、目と口の描き方で、蛙の絵には、投げ飛ばしたとたんの激しい気合いがこもっていることがわかるね。そう、きつとこれは「ええい、い」とか、「ガ、ロ、ロ、ッ」とか、気合いの声なのではないか。まるで、漫画のふき出しと同じようなことを、こんな昔からやっているのだ。</p>	<p>② 段落の本文 (略) 耳の先だけがぼちんと黒いのは、白い冬毛の北国の野ウサギ。蛙はトノサケカエル。まだら模様があつて、いく筋か背中が盛り上がっている。ただの空想ではなく、ちやんと動物を観察したうえで、骨格も、手足も、毛並みも、ほぼ正確にしっかりと描いている。だから、この絵を見ると、さつきまで四本足で駆けたり飛びはねたりしていた本当の兎や蛙たちが、今ひよいと立って遊び始めたのだと思えない。</p>
「表情」	「線の太さ・筆さばき」	「格好・表情・気持ち」
	「気持ち」	「模様・形」
		「色」
		書き込みの例 (何に着目しているか)